



みなさまこんにちは

日本人の大好きな桜の季節になりました。日本人はなぜお花見をするのでしょうか。じつはお花見こそが日本古来の願いをかなえる引き寄せの法則だったんです。昔の人たちは秋に豊作であるように桜の花をたわわに実った稲の穂と見立ててみんなでわいわいお酒を飲んで前祝いをする事で夢を引き寄せていました。これを予祝といいますが夏の盆踊りも、秋の豊作を喜び踊りであり、予祝だったわけです。

長嶋茂雄が、1959年に天皇后陛下を迎えて行われた天覧試合。長嶋は極度の不振に陥っていましたが、その試合が始まる前に、最寄りの駅でありったけのスポーツ新聞を買ってきて、自分で見出しを書き込んでいました。「長嶋、サヨナラ本塁打」「天覧試合でサヨナラ打」「長嶋の一発に尽きる！さすが、ゴールデンルーキー、歴史に残る一発だ！」こうしたことを、マジックで書き上げ、先に喜び、祝杯を挙げていたのです。なんとその予祝は、すべて現実のものとなりました。ソフトバンクの孫正義氏も、プロジェクトを立ち上げる時は、先に部屋の中でガッツポーズをして、プロジェクトが成功したことをイメージし、先に喜ぶそうです。作家のひすいこたろうさんが著書『世界一ふざけた夢の叶え方』の中にある定例会もまさに予祝でした。発明王エジソンは、発明する前に、「それをすでに発明しました」と、先に記者発表して出来たことをお祝いしていたそうです。(笑)夢が叶うコツは面白がることで疑ったり、深刻にならないでおふざけでもそれが叶ったことをただただ心から喜んでいてという状況になるということです。夢は楽しんでみていると子犬のようにあとから付いてくるんですね。

今年のお花見は『夢の大ほらふき大会』なんて楽しそうですね。

花粉症だけじゃない 春はこんなアレルギーにご注意!



春は花粉症以外にも、注意したいアレルギーがあります。そのひとつが、春に旬を迎えるタケノコ。採れたてのタケノコの煮物や炊き込みご飯は絶品ですが、「タケノコアレルギー」の人は、タケノコの天然成分である「アセチルコリン」「ノイリン」が原因となって、胃痛やかゆみなどのアレルギー症状を引き起こすことがあるので注意しましょう。また、卒業式や入学式などで、おめでたいエビ料理を食べる機会が増えます。しかし、日本人の成人には、エビやカニを食べるとアレルギー症状を起こす「甲殻類アレルギー」が多いといわれる(厚生労働省HPより)ので、気になる人はアレルギー検査を受けましょう。なお、アレルギー体質でなくても、少し傷んだサバやカジキ、マグロなどを食べると、じんましんが出たり腹痛を起こしてしまうケースがあります。これは「ヒスタミン食中毒」といわれるアレルギーに似たアレルギー様食中毒で、誰にでもなり得る可能性があります。魚の保存過程で温度管理が悪く、一度ヒスタミンが産生されると、煮ても焼いてもヒスタミンは減りません。魚は新鮮なうちに食べるに限りますね!

知らなかった真実

人生の真実を求めている人は多いと思います。ある人生の真実をご紹介します。

- 真実1. 自分の舌ですべての自分の歯に触れることはできない
- 真実2. きっと大半の愚か者は、真実1が本当か試している
- 真実3. 真実1は真っ赤な嘘である
- 真実4. きっとあなたは自分の間抜けさにニヤニヤしている
- 真実5. もうすぐあなたは別の愚か者にこれを教えようとする
- 真実6. あなたはまだニヤついている

本当の真実は騙された方が逆切れするという。世の中の真実なんてこんなもんです。エイプリルフールでした〜(^o^)/



解熱や利尿に用いられた生薬 レンゲ



本格的な春の訪れを告げる野の花のひとつ、「レンゲ」。子どもの頃、一面に咲き誇るレンゲ畑で花を摘み、花冠や首飾りなどをつくって遊んだ人もいたのではないのでしょうか。かつて、レンゲは農耕の始まりを知らせてくれる花でした。レンゲの根には根粒バクテリアが共生して、空中の窒素を固定してたくわえる性質があります。そのため、緑肥や農耕家畜用の飼料作物として、レンゲが田んぼによく植えられていました。しかし、化学肥料や耕うん機の普及により、緑肥や飼料作物としての役目は終わりました。

かわって最近では、畑地の地力増進や養蜂の蜜源として、あるいは農村の地域活性化の一環として、レンゲ畑が少しずつ増えているようです。レンゲを薬用に使う際は、茎葉を乾燥させ、解熱や利尿に用いられてきました。また、食用にする際は、若葉を油で炒めたり、揚げ物や塩漬にします。

「野道行けば げんげんの束 すててある」という正岡子規の句にもあるように、レンゲの日本名は「ゲンゲ」で、漢名の音読みに由来しているようです。花が輪のように並んだ様子を蓮の花に見立てて「蓮華草」、花が咲く時期に紫雲が低くたなびくことから「紫雲英(げんげ)」など、レンゲには別名が数多くあります。

「手に取るな、やはり野に置け蓮華草」という句は、野花のレンゲは野に咲いているのがふさわしく、何ごとにも相応の場所があるという意味です。レンゲの花言葉は「あなたがいれば、私の苦痛は和らぐ」「私の苦痛を和らげる」です。出典：牧幸男『植物樂趣』



有限会社 ソーラープロジェクト大社

本社: 〒699-0722 島根県出雲市大社町北荒木1057-4

☎0120-830-352

お電話受付時間/10:00~20:00・ショールーム営業時間/10:00~17:00・土日祝日も対応/定休日:水曜日